令和６年度　長野県松本蟻ケ崎高等学校　入学式式辞

寒かった冬の名残が感じられた松本平にも一気に穏やかな風が吹き桜の開花が待ち遠しい頃となりました。本日の佳き日、同窓会長　和合直子様始め、ご来賓の皆さまそして保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに松本蟻ケ崎高等学校令和６年度入学式を挙行できますことを大変喜ばしく、関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

只今入学を許可いたしました２８１名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。中学から高校へと一回り成長された、凛としたお子様の姿に感慨ひとしおのこととお喜び申し上げます。

松本蟻ケ崎高校は、明治３４年、松本高等女学校として設立され、３年前に創立１２０年を迎えた誇り高き伝統ある学校です。自主・自立・自存の精神を涵養し、より文化的で暮らしやすい社会の形成者として、希望と未来のある世界の構築に実践的に参画できる個性豊かな人材の育成を教育方針とし、昭和５０年以降は男女共学となりより一層活発な活動が展開する学校となっております。松本の地域に根付いた教育環境の中で、活気あふれる活動の歴史を刻んできた本校の卒業生の皆さまは、蟻ケ崎高校で学んだ時間を誇りに、県内外でご活躍されており、そんな同窓生の皆様方に愛情をもってご支援いただいております。新入生の皆さんは、自分の意志で初めて進むべき道を選択し本校への入学が叶いました。高校３年間の時間を皆さんが有意義に過ごせますよう、自立の道のりをしっかり支援し教育活動に取り組んでまいりたいと考えております。保護者の皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長野県は昨年、第４次教育振興基本計画を示し「【好き】をとことん追究する【探究県ながの】」を謳い、個人と社会のウェルビーイング実現に向け教育の方向性を定めました。高校生の学びのスタイルは大きく変わり、４年前には考えられなかったICT教育がスピード感を持って劇的に教育に浸透しました。半面、世の中を見渡せば未だ人と人とが傷つけあう紛争が後を絶たず、多様性を認め合い尊重し合いながらグローバルな視野で自他を認め合う社会に向けて、心の醸成も重要視されていくところとなっています。

室町時代初期の猿楽師で、現代には観世流として受け継がれる「能」を大成させた世阿弥の「風姿花伝」に、その姿勢が伝えられています。今でいえば、観世流劇団のオーナー兼プロデューサーであった世阿弥は、劇団存続のために一番重要なことは何かを考え抜きました。世阿弥は、「自分の姿を前後左右からよく見なければならない」と述べています。これが「離見（りけん）の見（けん）」です。客席で見ている観客の目で、自分を見なさい　という意味です。実際に自分の姿を自分で見ることはできませんが独りよがりになることを避けなければならないことを述べ、また自分を第三者的に見るために「目前心後（もくぜんしんご）」という言葉も用いています。「目は前を見ていても心は後ろにおいておけ」ということ、すなわち、自分を客観的に、外側から見る努力が必要であると伝えています。

これは単に演劇の世界に限ったことではなく、とかく前を見る事を要求される世の中では、自分の後ろ姿に卑しさが出ていないかを振り返る努力、自分を高めていくには自身を客観的に見ながら、調和のとれた人間形成につなげていくことも、成長の過程では重要視されるところであると、あらためて感じます。

新入生の皆さんには、社会参画の一歩手前である高校での学びにおいて、自身を見つめながら、お互いを尊重し合い、蟻ケ崎高校での様々な学びの機会を大切に、夢と希望を携え、未来を切り拓いていって欲しいと祈念いたします。

本日、そのスタート地点に立った新入生の皆さんが、力強く一歩を踏み出すことを切に願って、入学式の式辞といたします。

令和６年４月４日

長野県松本蟻ケ崎高等学校長　　鳥谷越　浩子